グアムで実物を観察できる貴重な絶滅危惧種

前号では絶滅に瀕したグアムの国鳥で現地固有種でもあるココバード（グアムクイナ）についての概要と、その保護活動への取り組みをご案内しました。現在、グアム島南部のココス島で米国農業省水野生生物局から保護観察用に貸与され一般公開中のココバードの成鳥を至近距離で観察する事ができますが、この事自体が極めて異例です。同様のクイナ種である沖縄のヤンバルクイナの親戚筋で外見も絶滅危惧種への過程も酷似していますが、日本で天然記念物でもあるヤンバルクイナの成鳥を常時観察できるところはありません。

親戚筋、沖縄ヤンバルクイナの実態

進化的には親戚筋で3代ほど後輩に当たるヤンバルクイナは毒蛇ハブ対策用に人為的に沖縄に移入され、その後またたく間に（今夏ついに日本本土九州南部でも自然繁殖が確認されたとの報道があったばかりの猛烈な繁殖力で）数を増やしたマングースの生息域に追いやられ現在は環境省による保護観察下、島北部のヤンバルの森で僅かに自然放鳥で個体数が維持されている沖縄ですが、この生息地であるヤンバルの森に足を踏み込んでも実物の成鳥を見ることは至難の業です。「やんばる野生生物保護センター」には国（環境省）から派遣された自然保護官が常駐し、同時に現地でのヤンバルクイナの保護啓蒙活動の拠点となっています。ヤンバルクイナ保護の実態がパネル展示され、中でもマングースの生息域拡大に反比例して今もどんどん彼らの生息域が追いやられている危機的な経緯と状況、加えて更に予想よりも深刻な自動車事故被害多発の実態などを知ることができ、一旦絶滅に瀕した生命種とはこんなにも個体数維持することが難しいものか、また回復する作業には更にどれほどの気の遠くなる努力が必要か思い知らされます。私が訪問した際も前出の環境省保護官はグアムの絶滅危惧種、ココバード（グアムクイナ）の米国政府保護の実態やこれまでの様々な取り組みの経緯と現在進行中のココス島内での自然放鳥計画に対して相互に情報を共有するとともに今後グアムでの推移に高い関心を示されていました。

ココバードを見てみよう（その2）
絶滅への運命をたどった鳥達

ココスアイランドリゾート　総支配人
杉山 博史

「ココス島ココバード」外見は沖縄のヤンバルクイナと酷似、共に絶滅危惧種

沖縄自然環境保護の象徴としてのヤンバルクイナの存在

「やんばる野生生物保護センター」の訪問後、踏み入ったヤンバルの森には沖縄滞在中にはやはりこの鳥を一目見ようと現地を訪れていたツーリストや近隣のホテルからのエコツアー自然散策コース

沖縄県北部県道で頻発する交通事故死したヤンバルクイナの写真（保護センター）

に参加してクイナ探しのトレッキングをする方々に出会いましたが、あらかじめの情報通りこの森で実物に出会うのは至難の技で代わりに姿を現したのは巨大なヤンバルクイナの形をした展望台だったりで、縄張りか求愛の合図か時折「かっ、かっ」と甲高く鳴きわたる彼らの確かな存在を示す鳴き声だけが谷合に響きわたっていました。結局この日は自然の森での遭遇は叶わず、保護センターにカラー写真展示されていた県道での交通事故死した悲しい姿の報道写真だけが私には印象に残りました。

個体数復帰への道のり、日本の国鳥「トキ」の場合

日本でもほかに絶滅を迎えた固有種がいます。学名「ニッポニア・ニッポン」と呼ばれる国鳥「トキ」ですが、平成15年10月に最後の一羽「キン（雌）」を失った後は日本同様に絶滅の危機に瀕しながら人工繁殖でかろうじて個体数を維持、回復させた中国から中国産トキを譲り受けて佐渡トキ保護センターでの人工繁殖とその後のトキ野生復帰ステーションでの自然順応プログラムを経て順次野生に復帰させているのはご存じのとおりです。何よりトキ生息への自然回帰へ向けた社会的環境整備や自然保護意識の高まりから佐渡では集落、ＮＰＯ、学校、行政などが一丸で連携、市では放鳥後の様子をトキ目撃情報の収集とトキ野生復帰の普及啓発を目的に市民から「佐渡市トキ保護監視員」を任命するなどの地道な活動の結果、２００８年９月には自然への順化訓練を受けた10羽がまず佐渡の空に実に27年ぶりに放鳥されました。私もメンバーの一員であります佐渡トキファンクラブからの最新情報通信によりますとその後佐渡や本州に７羽を確認、１羽の死亡と２羽の所在不明が伝えられていますが、このグアムの情報誌が発行される直前時期２００９年９月末には第２次分、約20羽の追加放鳥が予定されるなど、順調な保護活動が進行しています。

日本の野生生まれの最後のトキ「キン(雌)」
（2003.10月死亡：剥製）

優しい観光資源「自然保護とトキ」

自然環境の破壊など生息環境の悪化と共にトキが減少した理由の一つにもなっている明治時代の乱獲（「トキ色」という色合いの由来でもある美しい羽毛を獲るため）の対象であるトキの羽については現在『トキの羽を拾ったら、ほかの人にあげないで』とされ、この様な自然放鳥のトキの羽を拾った場合についても例え金銭の取引が無くても譲り渡しなどをしてはならず、「種の保存法」によって個体の捕獲や損傷ばかりでなく羽の譲り渡し（あげる、売る、貸す、もらう、買う、借りる）や販売・頒布目的での陳列、及び輸出入をすることが厳しく規制（環境大臣の許可要）されている程です。現在佐渡ではトキをモチーフにした様々なお土産品（置物、小物、ぬいぐるみ、洋和菓子）が販売され優しいトキ保護を通して結果的に自然保護に有用で有益な佐渡の「島おこし」につながっています。豊岡市のコウノトリと日本各地での地域挙げての様々な保護推進活動（保護活動会員クラブや保護ファンド（口数）設立、登録者メール情報通信、教育現場での啓蒙活動）は、今後グアムでのココバード保護の取り組みを通した優しい観光資源発掘による新たな島おこしにも大きなヒントを与えてくれます。

グアム政府観光局（ＧＶＢ）主催「ココロードレース」開催

10月18日にはグアムでココバードの保護活動推進をテーマにした「第4回ココロードレース」が開催されます。環境保護活動の一環としてグアム政府観光局（ＧＶＢ）主催、グアム政府後援の現地恒例となった大会でハーフマラソン&駅伝（21.0975km）です。地元及び日本からの参加者も多く健康増進と環境問題を身近に意識するイベントとして是非参加されてみては如何でしょうか。詳細はＧＶＢウェブサイト　http://www.visitguam.jp　で。